

インドネシア：探鉱投資レベル に復活の兆し Medco/Anadarkoの共同探鉱計画

2005/10/12

調査部

坂本 茂樹

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

1

要点

- Medco/ Anadarkoがインドネシアで共同探鉱を実施（2005年から3年間、\$0.8億を投資）
 - Medcoは別途単独で\$1.2億を投資→併せて\$2.0億
 - 中部スラウェシ・ガス田開発では、CNG事業を試みる
 - Anadarkoは投資環境が整いつつあると判断、インドネシアの探鉱に復帰する
- インドネシアの投資環境改善策が奏効か？
- 今後、さらに投資環境整備の努力を継続するとともに、ガス田開発・ガス利用促進のために輸送インフラの整備、インセンティブ強化が必要

2

Medco/Anadarkoの共同探鉱計画

- 契約期間：2005年から3年間
- 対象地域：Medcoが保有する13件のPS契約（スマトラ、カリマンタン、スラウェシ、ジャワ、パプア州）
- 投資額：8,000万ドル→ Anadarkoが全額負担
- Anadarkoの権益取得：炭化水素が発見されて開発計画が承認された場合、Anadarko は対象鉱区権益の40%を取得する

3

Medco/Anadarkoの共同探鉱鉱区

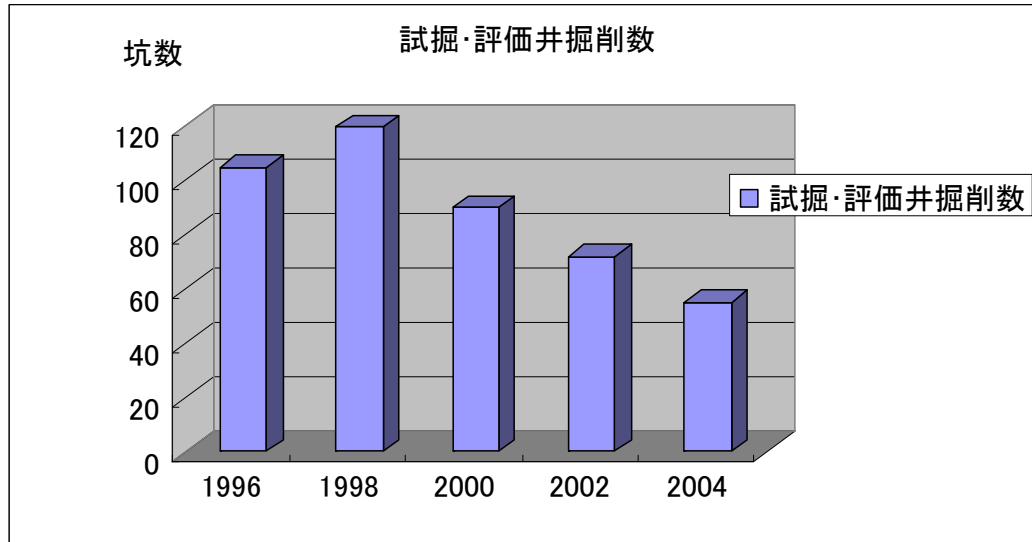


- Anadarko 100%
- Anadarko Partial

(出所) Anadarko社 HP

4

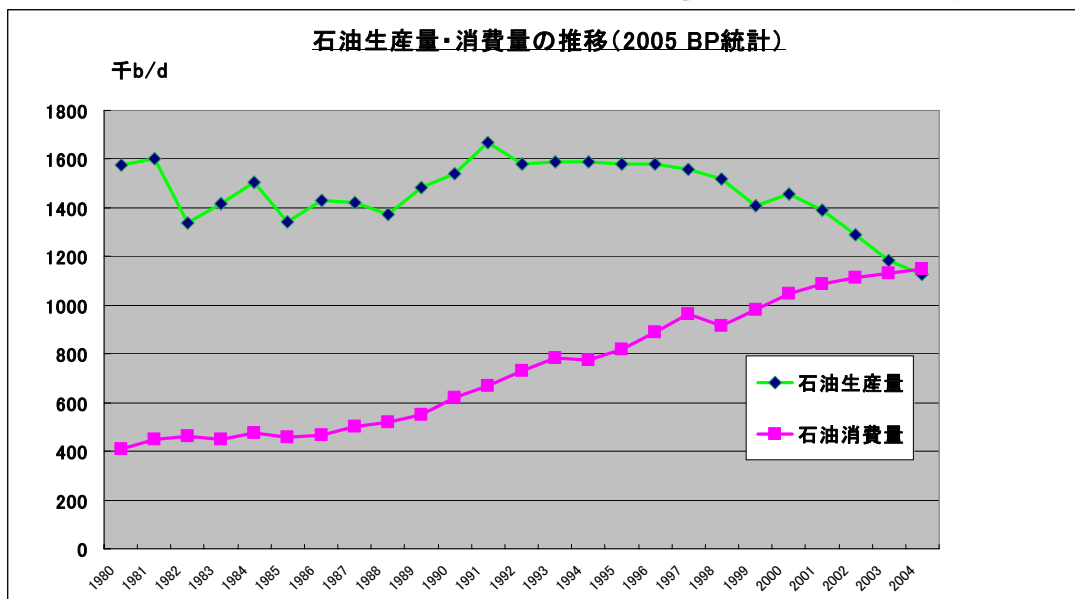
インドネシア試掘・評価井掘削数推移



(出所) コンサルタント・データ

1990年代末から、石油上流産業への投資が低迷し、試掘・評価井の掘削数、原油生産量とも減少

石油生産量・消費量の推移



(出所) 2005BP統計

2004年、原油生産量が100万b/dを割り込み石油純輸入国に転落
 ⇒大きな波紋と政府内の危機感→投資環境改善の機運

共同探鉱計画の投資環境への影響

1. 原油生産回復の手段

- 既発見油田の開発促進、速やかな生産移行（チェプ鉱区、ジェルク油田（ジャワ島））

2. 長期的な原油生産量維持の方法

「探鉱活動の再活生化、継続的な新規発見」

- 政府の投資環境改善の最中の探鉱投資計画
→探鉱投資レベルの回復の兆し
→インドネシア政府も共同探鉱計画を歓迎

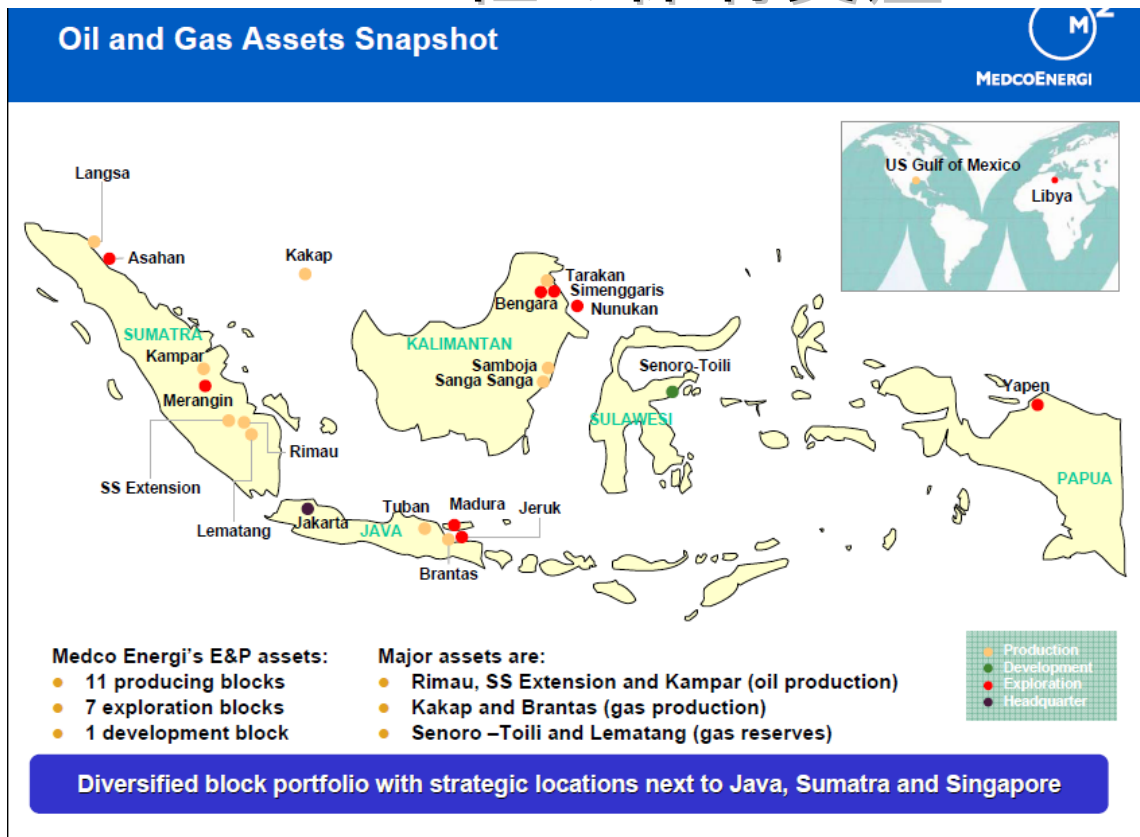
Medco事業戦略(1)事業経緯/現況

1. 会社・上流事業の経緯

- 1980年設立：インドネシアの掘削コントラクター
- 1992年 カリマンタンで探鉱・生産鉱区権益取得
以降、インドネシアでの資産を買い増し
- 2004年 米国GOMで探鉱/生産事業を開始

2. 上流事業の現況

- 2004年生産量＝8.8万boe/d（内原油＝5.7万b/d）
- E&P部門収入が全体の約73%
- 2000年以降埋蔵量が減少
→探鉱・買収で資産を増やす必要性



(出所) 2005年8月Medco社説明資料

Medco事業戦略(2)事業計画

1. 探鉱: インドネシアとリビア

- 2005～2007年に試掘・評価井60坑を掘削
- 国内探鉱: 単独(\$1.2-1.3億)+共同事業(\$0.8億)

2. 中部スラウェシSenoro-Toiliガス田開発 (2.5tcf)

- 第1フェーズ: 小規模LNG(豪州企業LNG International)向け120MMcfd 他
- 第2フェーズ: CNG事業(ジャワ、バリ島向け)

3. その他: 下記ガス権益買収を検討中

- スマトラ・アチェA鉱区、ナツナDアルファガス田 10



(出所) 2005年8月Medco社説明資料

11

Anadarkoの事業戦略

1. インドネシアの事業計画

- 2004年第4次公開入札でMadura第3鉱区取得
⇒インドネシア探鉱に復帰
- Medcoとの共同探鉱計画は復帰後の第2弾

2. 着眼点

- 契約条件の改善⇒再参入する投資環境が整う
- ジャワ島等で大規模油田の発見が相次ぐ(ジェルク、チェプ鉱区のBanyu Urip)

12

1. 投資環境改善の継続

- PS契約の経済条件は改善される方向にある
- 政府エネルギー諸機関業務の迅速化・効率化

2. ガス事業環境の整備

- インドネシア炭化水素埋蔵量の78%はガス
 - 政府はガス有効利用の政策を掲げるが、事業環境が未整備、中小ガス田は事業化できず
- ・幹線ガス・パイプライン建設を遅延なく進める
・ガス開発・ガス利用へのインセンティブを強化